

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	観光型ホテル（経営者）	・愛知万博も終了し、九州地域でブランドづくり、町づくりに力を入れているので、来客数は増加する。
	やや良くなる	百貨店（販売促進担当）	・少しずつではあるが好況感が広がっており、高額品ニーズの増加が期待される。また、県内企業のボーナス2期連続増加等の明るいニュースが、顧客の購買意欲を底上げする。ウォームビズの効果も期待できる。
		スーパー（店長）	・単価はダウンしているが、客数が増えている。秋物の売行きは良くないが、クールビズの影響で紳士服の動きが非常に良く、最も数字の大きい婦人服の動きも堅調であった。また、食品も非常に堅調であり、今後も期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・秋・冬物商品も出だし好調であり、キャンペーン等も続くことから売上も順調にアップしてくる。
		衣料品専門店（総務担当）	・高級品の売上単価は下がっているが、販売量は増加している。この傾向が今後も続く。
		家電量販店（経営者）	・地上波デジタル化に関する商品の需要が、今後増えていく。
		家電量販店（店員）	・年末に向けて需要期であるので、パソコン、デジタルカメラ等の新製品が多く出てくるので、やや良くなっていく。特に企業、公共機関のまとまった購買が、かなり増えているので期待している。
		家電量販店（総務担当）	・地上波デジタル化、冬季オリンピックに向けて、AV商品に期待がもてる。
		乗用車販売店（経理担当）	・秋口から2車種ほど新型が出るので若干景気は上向く。
		乗用車販売店（管理担当）	・原油の高騰や消費税導入時に車の買替えがかなりあったが、現在その買替え時期にきており、今よりも良くなっていく。
		都市型ホテル（総支配人）	・新空港開設や工場進出により活気がある。
		旅行代理店（業務担当）	・海外旅行需要の先行受注状況がやや上向きである。
		ゴルフ場（従業員）	・客単価は安いですが、ツアー客が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	・地価が値上がり転じており、都心部から周辺部の土地も今から上昇に転じるため、需要が見込める。
変わらない	商店街（代表者）	・中心街が落ち込み、来街者も減っているため、良くなることはない。	
	商店街（代表者）	・秋冬物の商品になっているが、安売りの商品を購入しようとする客が目立っており、利益が上がりにくい。	
	百貨店（営業担当）	・客の要望を満たさない催事は、前年の売上を確保するのも困難になっている。残暑の影響もあり、秋物の買上が今一步である。	
	百貨店（販売促進担当）	・来客数、売上が前年を確保できる見通しが無い。	
	百貨店（売場担当）	・今月は台風もあったが、全般的に消費者の購買意欲が無い。ただし来客数は前年比97%前後と、流れとしては変わっていない。買上のない客が若干増えていることが懸念材料である。	
	スーパー（店長）	・競合店として新しく大型商業施設ができたため、10、11月は創業祭の月であるが、かなり苦戦する。	
	スーパー（店長）	・石油製品、ガソリン等の値上げが続いており、商品の値上げによる売上の減少や、食費等の節約をする客が増えるという懸念がある。	
	スーパー（総務担当）	・ここ数か月、食品は前年並みを推移しているが、衣料品については気温の変化等によりかなり左右されやすく、今後も売上が伸びる見込みが無い。	
	スーパー（企画担当）	・製造業の景気が堅調に推移していることから、日常商品を販売するスーパーでの購買意欲よりも、自動車や電気製品等の高額品への購買意欲の方が強いことが想定されるため、現状よりも好転することは難しい。	
	コンビニ（エリア担当）	・コンビニの根幹である新商品の苦戦がみられ、今後同じ傾向が続く。	
	家電量販店（店員）	・液晶テレビやDVDレコーダー等が売れている反面、その他の商品が落ちている。家電の中でも、どれかが売ればどれかは売れなくなる。	

	乗用車販売店（従業員）	・新車の受注台数が伸びない。	
	乗用車販売店（販売担当）	・来客数や購買行動を見ていると、従来とあまり変わっていない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・来客数、客単価ともに大きな変動はなく変わらない。	
	旅行代理店（従業員）	・愛知万博後、関東・関西の大型テーマパークの予約が増えた。海外はハワイ、香港等の直行便が運休止単価が上がっている。	
	通信会社（業務担当）	・10月からキャンペーンが始まり、現在の商品価格も下がるが、より多くの購買層に支持される価格までには至らないので、大きな伸びは期待できない。	
	ゴルフ場（スタッフ）	・建設土木関係のコンペが非常に少ない。他業界での新規コンペも特になく、数か月前と比較しても同じ状況である。	
	設計事務所（所長）	・民間の建築の企画や相談は増えているが、官庁工事の発注が若干目減りしている。総合的には変わらない。	
	設計事務所（代表取締役）	・消費者の将来の不安感などにより住宅需要などが増加することは考えにくく、公共側の建設需要も減少する方向にある。官民の福祉関係の施設建設も、高齢者施設などハード側の供給は落ち着いてきたため、今後需要の増加は見込めない。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅展示場への来客数が少ない状況が続いている。	
	住宅販売会社（従業員）	・他社との競争が激しく、コストアップもあり利益率が非常に厳しくなっている。	
やや悪くなる	百貨店（総務担当）	・郊外型大型商業施設の増加により、年末年始はより厳しい競争が予想される。	
	スーパー（経営者）	・今後また大型店の出店等があり、客の動きがそちらに集中する恐れがある。	
	スーパー（店長）	・9月にドラッグストアがオープンし、11月下旬に商業施設がオープンするため、非常に苦戦する。	
	コンビニ（販売促進担当）	・石油の高騰の影響がじわじわと出てきている。配送コストの削減によるコースの統合、パンの包材であるフィルムのコストも若干上がり、クリスマスケーキの包材関係のコストも上がってくる。	
	高級レストラン（経営者）	・これから忘年会の時期になるが、まだ予約も入っていない。	
	一般レストラン（スタッフ）	・年末の忘年会等のプランが2、3か月後の勝負になるが、団体等の予約が近年減ってきているため、厳しくなる。	
	都市型ホテル（副支配人）	・3か月後には原油高の影響が出始める。	
	タクシー運転手	・夜の人の動きが悪くなっている。歓楽街の経営者の話では昨年に比べて売上もかなり落ちており、客も減っているという。先月いっぱい閉店、休業をしている店もかなりある。	
悪くなる	競輪場（職員）	・この時期、ある程度の発売額の減少はあるが、昨年より減少が大きい。	
	百貨店（営業担当）	・近隣の大型商業施設の影響は2、3か月で収まるかと思われたが、厳しくなっている。特に土日、祭日はヤングとファミリーの中心街への集客が落ちており、この傾向は今後ますます強くなる。	
企業 動向 関連	高級レストラン（経営者）	・例年、10月以降は企業の招待旅行等が多かったが、今年はほとんど予約が入っていない。	
	良くなる	不動産業（総務担当）	・市街化中心地の不動産の取引は増加する。
		広告代理店（従業員）	・10月の出だしも前年比10%近い伸びである。
	やや良くなる	繊維工業（営業担当）	・企業の景気が上向きになってきているので、ユニフォームやカジュアルな服についても売行きが上がってくる。
		家具製造業（従業員）	・マンションの建設ラッシュがまだまだ続く予定であり、商業施設の建設も予定が入っている。これらに伴い家具の動きもこの先、上向き傾向である。
		鉄鋼業（経営者）	・契約残もかなりの数量に達しているが、今後秋口にかけて更に新規物件の需要が期待できる。このため価格も反転し、徐々にではあるが上昇に転じる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先からの情報などによると、これから受注が活発になる。また、引き合い案件も増えてきている。しかし、コスト面が厳しくなり、仕事は厳しくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ここ半年くらいで新しい引き合いの仕事などが出てきている。さらに九州自動車百万台構想の具体的な話も出てくるため、必ず良くなる。

		精密機械器具製造業（経営者）	・周りの同業者の仕事、客の話から受注関係は増える。新しい製品、新しい開発関係もそれぞれ進んできている。
		建設業（総務担当）	・店舗のリニューアル、個人住宅のリフォームが増えてきた。
		金融業（営業担当）	・取引先の状況で、売上高が大きく落ち込むことはない。前年に比べ売上高、受注量は今後も増えていく傾向である。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上が順調に伸びている。
		新聞社（広告）	・地元の不動産や全国向けの健康食品などの動きが、活発になってきている。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・安心安全の視点から国内志向の高まりと、アジア地域の鳥インフルエンザの発生で国内鶏肉の供給が高まっている。秋口に入り、加工メーカーの最需要期でもあるが、茨城での鳥インフルエンザが完全に終息していないため、どのような影響が出てくるか少し心配である。
		農林水産業（従業者）	・食肉関係や生鮮は、低価格路線が続いていることから現状と変わらない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・これから3か月は需要期であるが、今の状態が続くとかンばしくない。特注品がいくらかきえているが、それも決定するかどうかは未定であり、なかなか厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・一般的に半導体関連、特に電子部品関係についての金型の動きが、9月下旬になっても変化がみられない。半導体関連、IT関連の景気の上向きはずれ込む。
		輸送業（従業員）	・関東、関西の荷主については取扱量が増えているが、九州の荷主についてはあまり取扱量は増えていない。
		輸送業（総務担当）	・荷動きの良い貨物がない。大きな変化はなくこのまま推移する。
	やや悪くなる	通信業（職員）	・今月は大型工事が受注できたため、一時的に良い状況ではあるが、今後はまた厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント	・原油価格がかなり上昇しているということで、ガソリンを含む燃料費が高騰してきている。関係先の様子をみていると、輸送コスト、燃料関係のコストが非常に厳しくなってきたおり、それを価格に転嫁できるかが、非常に問題になってきている。もし価格に転嫁できれば、デフレ脱却のきっかけになるが、競争が激しいため、できない企業が多い。そのようなコスト増が、利益に食い込んでくるリスクがあると若干心配している。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	・原油高や素材高への影響が、なかなか販売価格への転嫁に至っておらず、企業収益を圧迫している。個人消費においても、冬場にかけての石油価格等の大幅値上げは悪影響を及ぼす。
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・台風14号による県内の農業関係被害額は159億円に上った。園芸作物のピーマンの苗は、全国有数の産地である西都市内だけで10万本不足しており、被害額はさらに拡大する可能性がある。出荷量の減少から販売価格が高騰する可能性があるが、原油価格も高騰しており、県内全体としてはマイナス面が大きくなる。
雇用関連	良くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・求人数の増加に加え、派遣登録者の中に正社員希望者の増加が目立つ。これまで派遣社員の求人を中心であった営業・販売職種では、顧客の求人難からか、正社員の求人が前年比1.6倍と急速に高まっている。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・これから年末商戦に向けた求人が活発になる。これまでも求人数の増加で人材採用がひっ迫しているため、アルバイト・パートの求人活動は過熱する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・空港開港による経済的な影響が、当面良い方向にでる。
		職業安定所（職員）	・非正規社員にかかる求人が増加していることから、見かけほど雇用環境が改善しているわけではないが、ここ数年の採用手控えと大量定年への対応を図る必要性等から、新卒及び中途採用に積極的になりつつある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・再就職支援の分野は依頼件数は増加傾向にあるが、受皿はなかなか広がらない。直接雇用の採用条件も正社員でなく契約社員が多く、就業条件等は給与関係を中心に厳しく、雇用問題の解決には程遠い状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数が増加傾向にあること、非正規雇用の求人が増加傾向にあることなどから、安定した雇用が期待できる状況ではない。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-